

令和2年度 学校評価(自己評価)・学校関係者評価報告書

令和2年10月5日

令和3年1月20日

学校法人長岡学園清田幼稚園 園長 高村 誠

1. 本園の教育目標

・豊かな心づくり・たくましい体づくり・あたたかな仲間づくり

2. 本年度の重点

○子どもたちの健全な成長を支える土台として命と人権を守る安心・安全なあたたかい幼稚園

○子どもの主体性を育む環境構成に努め、“心が動く”幼稚園教育を創造する幼稚園

○共に学び合い、高め合う職員集団として、“笑顔”の絶えない職場の幼稚園

3. 評価項目の達成及び取組状況

1	目指す子ども像の達成 (設問 1. 2)	目指す子ども像にある「なかよく・あかるく・つよく・たたくしく」の姿に近づいているか。	A 100 %	自然環境を活かした活動、行事の取組、様々な体験活動や設定保育などの教育課程、先生方の計画的な指導や日常の子どもたちへの温かな目配りや声掛けが行き届き、具現化が進んでいる。
2	教育目標の達成 (設問 3. 4)	教育課程（教育の内容）は、教育目標「豊かな心づくり・たくましい体づくり、・あたたかな仲間づくり」を実現しているか。	A 100 %	教育目標の具現化に近づいている。特に、今年度は、お山の整備が成されたこと、新しい大型遊具の導入など、たくましい体づくりを推進する環境整備が進んできている。
3	安心・安全なあたたかい園 (設問 5. 6)	きよた幼稚園は、子ども一人一人をかけがえのない存在として人権と生命を尊重し、安心・安全な環境の下で教育活動を実践しているか。	A 100 %	教職員全体で個々の子どもを見守ったり、また新型コロナウイルス感染予防対策等で環境を見直したり等、良い状況であると考える。
4	主体性を育む環境構成 (設問 7. 8)	指導内容や方法、環境構成を工夫し、子どもたちの感性や心情をゆさぶり、試行錯誤したり、頭を働かせたりする経験を繰り返し、主体性を育む教育活動を実践しているか。	A 93 %	「子どもの主体性を育む」という目標に向かい、よりよい保育の在り方について考えながらの実践が成されている。今後は、子どもたちが自らやってみたい、挑戦したい、考えてみたい、作ってみたい等の達成感や充実感を得られる保育をさらに追及していく。
5	職員の同僚性協働性 (設問 9. 10)	教職員は、互いに他を認め合い、共に助け合う同僚性、協調性をもつとともに、業務遂行のために学び合ったり高め合ったりして教育活動を実践しているか。	A 94 %	教職員の同僚性、協調性については、概ね良好である。「清田幼稚園・清田幼稚園の子どもたちのために」という共通の目標の下に、互いに他を認め合い共に助け合う同僚性、協調性をこれからも大切にしていきたい。
6	改善事項 (設問 13. 14)	議題の周知 多様な考えを聞いて職員全体で合意形成	B 78 %	重要な案件については、全体での論議を進めるよう努め、印刷物や「れんらくアプリ」での情報共有も進んできている。しかし、職員全体での共通理解が必要な重要な事項については、さらなる丁寧な合意形成の進め方が求められている。

7	働き方改革 (設問 15.16)	午後の仕事、家庭訪問、非常勤と常勤、会議ノート、お便り、メール、会議ノート、バスキャッチ、年休取得、持ち上がり等	B 78 %	働き方改革(仕事の軽減、保育に専念できる環境等)については改善が進んでいる面もある。しかし、勤務時間の長さ、年休の取得については、今後も改善を進めることが重要である。
8	教育・保育 (設問 17.18)	禁止ワードを減らす、子どもの遊びを継続する工夫、お部屋遊びの日	B 59 %	「遊びを継続する工夫」「お部屋遊びの日の設定」等の見直しが進んできている。「ダメ!」「やめなさい!」などの禁止ワードは、危険な場合や緊急の場合以外は使わないという意識が幼稚園全体に広まってきている。
9	その他 (設問 19.20)	自由遊び、節約・節電、個性の発揮、園庭環境、言いやすい雰囲気、行事の事前調整、降雪時等の遊戯室の使い方、研修・研究の在り方	A 81 %	自分の好きな遊びを好きな時間に選択して遊べるようにしたこと、さらに日をまたいで継続して遊べるようにしたことは、子どもたちの成長に大きく寄与している。また、大型遊具の導入も、子どもたちのチャレンジ精神を刺激し、運動能力の向上に寄与している。 しかし、反面先生方の準備や看護体制に負担がかかっている点が課題である。
10	教育活動の自己評価 (設問 23~39)	保育の計画性、保育の在り方・園児対応、保育者としての資質・能力、保護者対応、地域との関わり、研修・研究	A 82 %	「保育の計画性」「保育の在り方・園児への対応」「保育者としての資質・能力」「保護者対応」等、概ね良好な結果である。また、先生方の多くが、幼稚園教諭の仕事にやりがいや達成感をもって取り組んでいる。

4. 総合的な評価結果

評価	その理由
A	<ul style="list-style-type: none"> 本園の目指す子ども像や教育目標、及び本年度の重点を個々の教職員が理解し、教育成果を上げることができている。また、今後の保育のさらなる充実に向けての課題も明確になった。 令和2年度の学校評価を受けての改善事項(合意形成・働き方改革等)については、改善された面もあるが、依然改善が進んでいない面もあった。改善に向けての継続した取組が必要である。

5. 今後取り組む課題

1	主体性を育む 保育の充実	子どもたち自らがやってみたい、挑戦したい、考えてみたい、作ってみたい…と『~たい』が生まれ、達成感や充実感を得られる保育をさらに推進していくために、先生方の柔軟なアイデアを出し合い、実践化いく体制づくり。
2	働き方改革の 推進	働き方改革(仕事の軽減、勤務時間の長さ、保育に専念できる環境、有給制度等)については、業務の見直しと精選を進めるとともに、「長く職場にいる」⇒「短時間で成果を上げる」への意識改革を進める。
3	職場の 合意形成	職員全体での共通理解が必要な重要な事項については、さらなる丁寧な合意形成を進めるような体制づくり。
4	地区幼保小 との連携	区内小学校の「スタートアップ・カリキュラム」等の情報を収集し、本園の教育課程の見直しの参考資料とするなど、近隣幼稚園、保育園等の情報も職員に広く提供していくように努める。

6. 学校関係者評価委員会の皆様からご意見

《札幌市立清田小学校 校長 里館 大 氏》

- 体づくりのため、環境整備（お山の整備、大型遊具の導入）が進められていることは、大変すばらしいと思います。
- 「子どもの主体性を育む」という目標に向かい、実践と振り返りを通して、さらなる育みを目指していることが伝わりました。小学校以降の「育み」とも重なっていくことなので、幼少の連携（情報の共有・連携した取組等）を強くしていきたいと思います。
- 上記と関連しますが、「ダメ」「やめなさい」が禁止ワードになっていること初めて知りました。職員が共通に「主体性を育む」意識をもつ実践例として「なるほど」と感心しました。発達段階の違いはありますが、小学校以降の育みにおいても「自分で考えさせる言葉がけ」ということを意識していく必要があると感じました。清田幼稚園の教育方針の一貫性がよく伝わってきました。
- 「学校関係者評価委員会の報告書」の内容が分かりやすくまとまっていたので、今年度実際の交流はできませんでしたが、取組状況の概要がよく分かりました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

《清田町内会 会長 猪野毛 昭男 氏》

- 今年度は新型コロナウイルスの感染防止のため、園児の成長ぶりを確認することができなかった（運動会・発表会等）のは、非常に残念であった。
- 新型コロナウイルスの感染が当園で発生しなかったのは、園全体での感染防止対策が徹底されたことに感謝しています。まだ、新型コロナウイルスの感染が終息されたわけではありませんので、気を緩めることないように注意していただきたい。

【評価の集計と考察について】

1. AよりB評価の高い点を重点に、設問に対する文章記載と考察を参考にさせていただきました。ゆえによく実態が理解できました。
2. 文章記述の中で、青色点と赤色点を注視しました。
3. 設問7以降について、今後の改善点が多く見られました。特に設問15の「働き方改革」（年休取得問題は現代っ子の考え方である）については、いかなる企業・役所においても考えられることで、考察に記載されていることを改善することによって、当園のさらなる発展が考えられますので、ぜひ思い切って実行に移していただきたいと思います。
4. 設問35～37の「地域との関わり」について、評価が低すぎると思われるので、当園の特色を生かしてほしいと思います。

《民生児童委員 木下 満子 氏》

【全体の感想】

○一昨年度までは毎年来年を楽しみにしていた入園式、運動会、学習発表会、卒園式等の行事が、縮小、取りやめになり来園することができなくなりとても残念でした。出席させていただくことによって、子どもたちの日常生活での過ごし方やがんばりや一人一人の個性や発達段階に合わせての指導の仕方や対処の仕方を、子どもたちと教職員の方々との信頼関係を、教職員同士の良好な関係をうかがい知ることが出来ました。

○令和2年度の内容の濃い学校評価の集計結果及び報告書を受け取り、清田幼稚園の皆様が幼児教育に真摯に取り組まれている様子に頭が下がりました。これからも、一人一人の人間形成の礎となる清田幼稚園の目指す子ども像の下、様々な方向、視点からの検討、実践を重ねられることを期待します。

■学校評価のやり方・評価の項目・評価の集計や考察について保護者評価は来年度からぜひ実施していただきたい。

評価の対象を幼稚園として重点的に取り組むべき項目に絞り設定したことはよいとおもいます。

本年度の重点として掲げられた3項目の評価は重点として掲げている以上、わかりやすく評価項目に入れてはどうかと思いました。本年度の重点項目の達成度が一目瞭然にわかるように。

自己評価の集計は自分にとっての振り返りや職場の仲間との共通意識を知るととても大切なものだと思います。今後も継続して行ってほしいです。

■ 目指す子どもの姿や教育目標について

- ・21世紀を生きていく子どもたちの人生の礎となる幼児期に清田幼稚園の目指す子どもの姿や教育目標はとても素晴らしいものだと思います。そして、その姿や目標に一步でも近づけるように皆さんが一丸となって活動されていることは素晴らしいと思います。

清田幼稚園のストロングポイントはこれからも維持し続けて行ってほしいと思います。

■ 子どもの育ちについて

- ・「禁止ワードを危険な場合や緊急の場合以外は使わない。」という取り組みはとても評価できると思いました。これは、できそうでいてなかなかできない取り組みだと思います。幼児期に集団の中で、子どもたちの自主性、自立性、自律性を養うことはとても大切なことだと思います。教育者という立場を個人や職場の中でどうとらえるかという共通理解ができていないとなかなか難しいと思います。教育者=教え導く者という意識が高ければ高いほど難しいと思います。年齢がいついなくても一人の人間としてとらえ、見守り待つ姿勢が大切だと思います。小さくても、困難にぶつかった時に自分で解決しようとする能力は誰もが持っているものだと思います。娘は清田幼稚園で出会った教職員の方々にそのようにして育てていただきました。

《北海道教育陶芸研究会 会長（元小学校長）金田 隆史 氏》

○「清田幼稚園の教育活動」について

【目指す子ども像、教育目標、経営の重点[3つの柱]の達成度及び意見】

以前、同じ学校にいた特別支援学級の先生と話をする機会がありました。いま小学校では、グレーゾーンの子どもがいままでよりも増えており、親がその対応に苦慮している姿や学校としてどう対応することがよいのか悩んでいること、グレーゾーンの子供とどう関わっていったらよいのかその対応について研修会を開いてほしいことや親への啓蒙などをしてほしいという声が多くなっていることを聞きました。

清田幼稚園でも特別支援教育委員会を設置しており、その役割がこれから大きくなることが予想されます。清田幼稚園のからにじみ出ている温かい人間関係をさらに深めつつ対応していただけるとよいと感じました。

○設問 3-6 虫が嫌いな先生もいますよね。担任の自由な体験活動を前面に出して行ってほしいです。

○設問 3-7 振り返りすぎると窮屈になります。ゆとりを大切にしてほしいです。

【清田幼稚園の良い所・改善すべきところ】

○子どもたちがやってみたいことに取り組める時間や自身が考えながら遊べる環境をとの意見がありました。自分の持っている力や個性的なものを発揮できることは、一生続けていくことです。その時間を週一回でもよいから設定してはどうかと思いました。ここにはたくさんの意見がありましたので、この中で一つか二つに絞って次年度実践してみてもいいでしょうか。

【昨年度の学校評価を受けての改善事項の進捗状況】

【保育の工夫・改善について】

○先生方の個性的な特技を生かした取り組みをこれからも進めて行ってほしいと願っています。

【働き方の工夫・見直し】

○たくさん改善していることに頭が下がります。あまり無理しないようにじっくり取り組んでいただきたいと思えます。

清田幼稚園のHPを毎週見っていますが、今年度はなかなか幼稚園に直接行くことがなかったので、この充実を更にお願ひできればさらに幼稚園のことを知る機会ができると思っています。

【「保育」に関する自己評価】

○本音で語れる職員集団だと思います。さらに長く勤められる職場であることを大切にしていきたいと感じました。

7. 学校関係者評価委員会の皆様からご意見を受けて

1	主体性を育む保育の充実	<p>子どもたちが自分のしたいこと、やりたいことを考えて主体的に遊びに取り組むことができるよう、幼稚園では自由遊びの時間に下記のような遊びを取り入れて活動しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋外の遊び：ボール、輪、縄跳び、サッカー、遊具遊び、おままごと、砂場、お山遊び ・屋内の遊び：お遊戯室遊び、お絵描き、粘土、カプラ、おままごと、自由工作 <p>金田先生からご指摘がありましたように、これからの社会を生きていく力として、「自ら考え自ら判断して行動していく力」の土台を育むためにも、今後とも子どもたち自身が主体的に考えて活動できる保育の充実に努めていきたいと考えます。</p> <p>また、先生方一人一人が、自分の持ち味を生かした教育活動を展開できるよう体制をつくっていききたいと考えております。</p>
2	働き方改革の推進	<p>猪野毛様からご指摘された働き方改革については、一朝一夕で解決できる課題ではありませんが、業務の見直しや効率化を進めるとともに、職員の意識を改革に努めてまいります。</p>
3	地区幼保小との連携	<p>猪野毛様からご指摘いただきましたように、地域に長く根付いてきた清田幼稚園として、地域との関わりが低い点は、大きな問題であると考えております。</p> <p>清田小学校の里館校長先生からもお声かけいただきましたが、同じ「清田」という名を掲げる清田幼稚園と清田小学校とは、子どもたちの交流だけではなく、教職員をも含めた交流を考えていきたいと考えております。</p> <p>また、清田幼稚園は厚別川の洪水に際しての避難確保計画の策定対象となっており、有事に際しての地域との連携が重要なことから、区役所等との連携にもさらに努めていきたいと考えております。</p>
4	学校評価について	<p>木下様からご指摘いただいた学校評価についてですが、次年度の評価については評価項目の見直しを進めるとともに保護者アンケートを実施し、その結果をお便りやホームページで広く公開していききたいと考えております。</p>
5	特別支援教育の充実について	<p>金田先生からご指摘いただきました特別支援教育委員会ですが、これからの共生社会の実現の礎として、一人一人の子どもたちの個性や特性を認めるとともに、子どもたち、保護者の心情に寄り添った教育活動を展開できるよう、今後とも職員の研修の充実、関係機関との連携を深めていきたいと考えております。</p>
6	HPの充実	<p>幼稚園のホームページについては、開設後長い年月が経過し、やや時代遅れの感が否めません。つきましては、次年度内に新しい形でのリニューアルを予定しておりますので、ご期待ください。</p>